

令和 7 年度 第 3 回教育改革推進会議資料

“学力向上”・“体力向上” に向けた取組について

令和 8 (2026) 年 1 月
川崎市教育委員会事務局

“学力向上”に向けた取組

●これまでの取組

【現行】かわさき教育プラン 基本政策Ⅱ-施策1 確かな学力の育成

事務事業名	取組内容
学力調査・授業改善研究事業	市学習状況調査・市学習診断テストの実施及び結果の活用推進 ◆ 調査・テストの実施及び個票配布実施 全国学力・学習状況調査の結果に基づく、各学校における授業改善の推進 ◆ 数値目標の設定等による授業改善の推進
きめ細かな指導推進事業	GIGA端末導入や学習状況調査の効果を踏まえた有効な指導に向けた研究実践の推進 ◆ 各学校における研究実践の推進実施 研究成果を活かした、習熟の程度に応じた学習など、きめ細かな指導・学びの推進 ◆ 手引き等を活用した取組の実施

参考指標	※かわさき教育プラン第3期実施計画の点検・評価（令和6（2024）年度の点検・評価）							
指標名	指標の説明		実績値	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	目標値（R7年度）
授業の理解度	「授業がわかる、どちらかといえどわかる」と回答した児童生徒の割合 【出典：川崎市学習状況調査】 小5：国語、算数、理科、社会の平均 中2：国語、数学、理科、社会、英語の平均	小5 (R3（2021）年度)	90.1%	89.3%	84.6%	85.3%	85.4%	94.0% 以上
		中2 (R3（2021）年度)	79.6%	79.0%	66.8%	66.0%	66.2%	82.0% 以上

すべての子どもが「分かる」ことをめざして、1人1台端末を最大限に活用しながら、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的にした学習活動の充実を図ってきた。

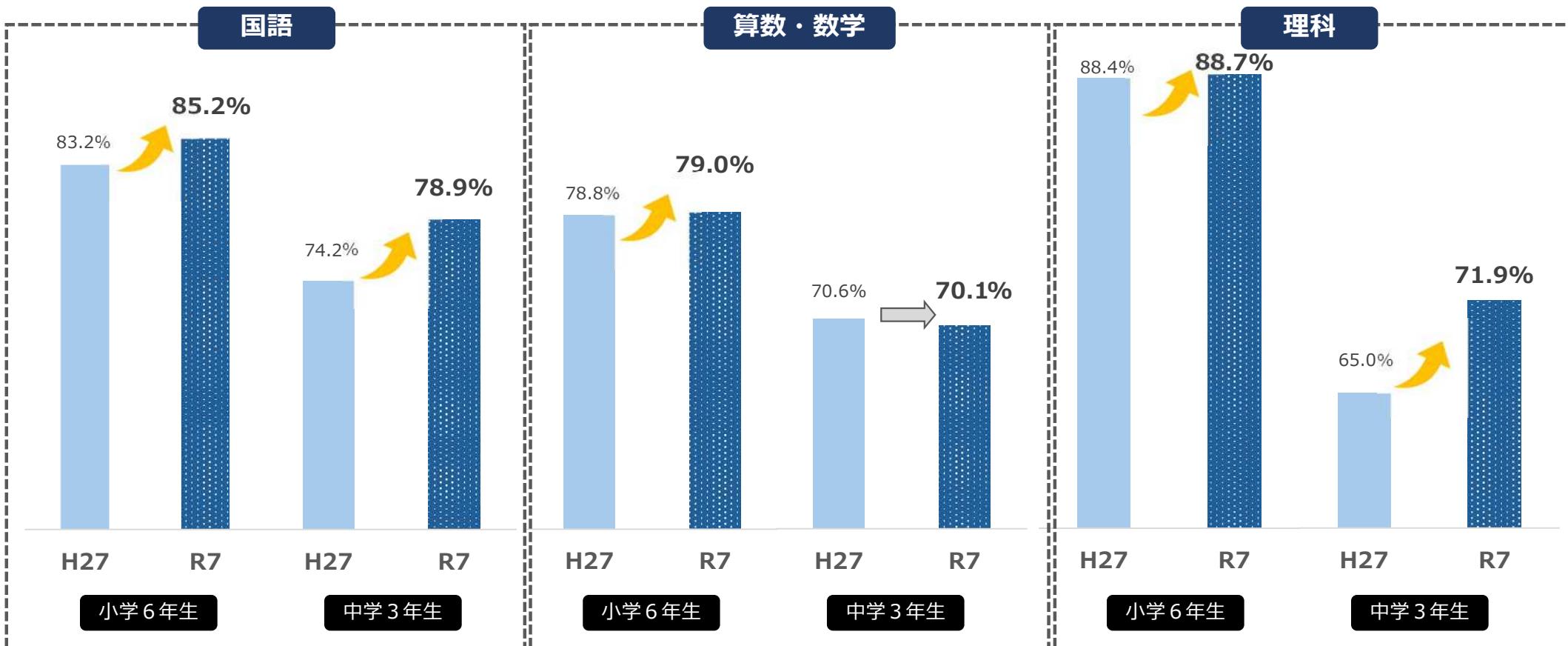
小5と中2で実施してきた市学習状況調査の実施学年を拡充し、そのデータを活用することで、教育活動の質を向上させ、学習効果の最大化を図るカリキュラム・マネジメントの改善・充実を図ってきた。

“学力向上”に向けた取組

●これまでの取組

【授業の理解度】（授業がわかる、どちらかいえばわかると回答した割合）

※出典：文部科学省「令和7年度全国学力・学習状況調査」



授業理解度の向上については、これまで重視してきた。児童生徒が自身の学習状況をどのように把握しているか、についての指標になるとともに、学習状況の改善にも大きく関連してゐるため、今後も重視していく。

“学力向上”に向けた取組

●これまでの取組

全国学力・学習状況調査（教科調査）

※出典：文部科学省「全国学力・学習状況調査」

	国語		算数・数学		英語	
	H31年度	R7年度	H31年度	R7年度	H31年度	R5年度
小学6年生	8位	➡ 3位	1位	➡ 1位	調査無し	
中学3年生	5位	➡ 6位	11位	➡ 2位	3位	➡ 1位

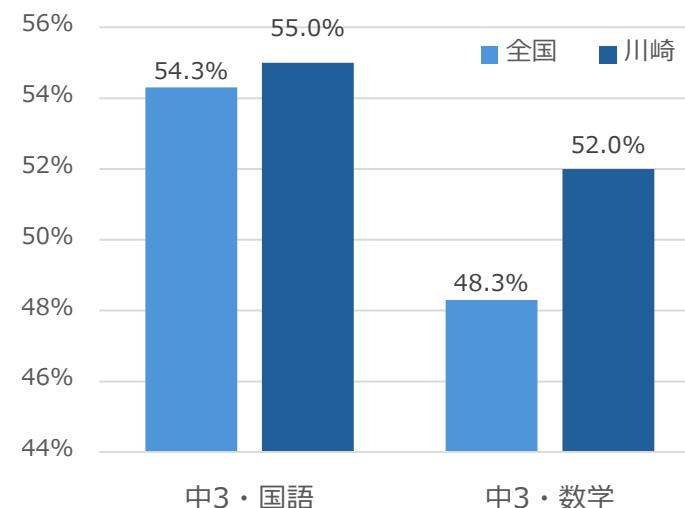
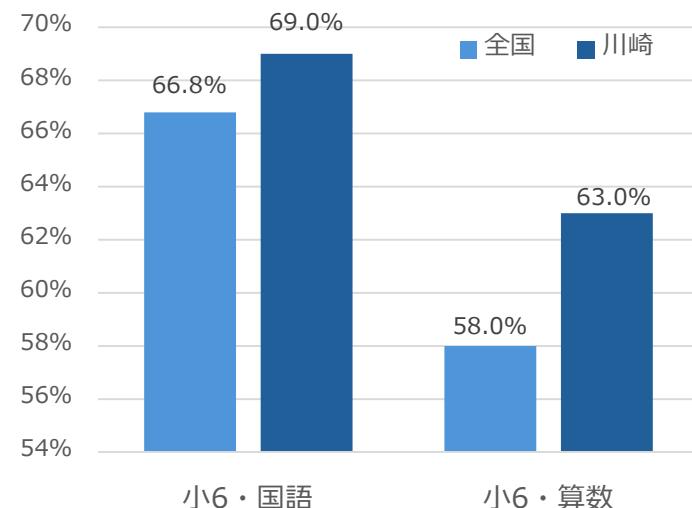
※1 順位は20政令指定都市中の順位

※2 教科調査の比較可能なデータはH31年度以降のみ

※3 教科調査における英語の調査年度はR5年度が最新（3年毎に実施）

各教科における平均正答率の全国との比較

※出典：文部科学省「令和7年度全国学力・学習状況調査」



きめ細かな指導を推進し、子どもたちの「わかる」の実感を大切にすることで、全国学力・学習状況調査の教科調査や、意識調査における授業理解度の向上がみられている。

“学力向上”に向けた取組

●令和5年第2回教育改革推進会議での主な意見

小5と中2で実施してきた市学習状況調査の実施学年を拡充し、そのデータを活用することで、カリキュラム・マネジメントの改善・充実に役立てることについて議論

- ・テーマ1 新しい市学習状況調査の結果を踏まえた今後の方向性について
- ・テーマ2 個別最適な学びの実現に向けた教育データの活用について

- ✓ 「わかる」を考えるときに、探究の学習、体験学習の成果といった**新たな学力観をどうやって見取っていって、それをどうやって先生方に生かしてもらうのか**という視点が必要
- ✓ 授業観や評価観を変えていくには、**教員、保護者、一般の人も含めて、ベースとなるものを共有していくことが、大きな課題**になってくる（例えば学習状況調査の結果に安心する保護者の声の一方で、新しい学力観で保護者の教科意識を変えようという学校の動きの関係など）。
- ✓ **学習に対する子どもの自発的なやりがいを高めて一人ひとりの資質・能力をどうつけていくのか。学習状況調査を学習意欲の向上につなげていくことが大切**
- ✓ 調査は知識中心とならざるをえないが、思考力・判断力・人間力の問題もあると、自分たちの学習してきた内容が身についていることを子どもたちも実感できるのではないか。
- ✓ 教育委員会は、**区ごとや学校ごとに状況が異なるので、そうした特徴を踏まえた取組等**を考えていった方がよい。

新たな学力観を踏まえた取組や、学習状況調査のさらなる活用が必要

“学力向上”に向けた取組

● 「第3次川崎市教育振興基本計画 かわさき教育プラン」（素案）について

【施策1】 子ども主体の学びの推進

【施策の目標】 社会的自立に必要な資質・能力が、子どもたちに培われている。

■課題

時代の変化に伴い学習方法も多様化しており、子どもが主語となる多様な学びの形に対応するためには、各学校が子どもの実態等を踏まえ、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図り、「主体的・対話的で深い学び」の視点から、すべての子どもが「わかる」授業をめざした授業改善や指導体制を推進する必要がある。

■今後の取組の方向性

- ・地域・社会への参画を通した「探究的な学び」の充実と計画的・系統的な「キャリア在り方生き方教育」の実践
- ・「確かな学力」の育成に向けて、すべての子どもが「わかる」授業をめざした「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実
- ・GIGA端末の更なる活用や学校における教育データの利活用など、教育DXの推進による教育の質の向上

“学力向上”に向けた取組

● 「第3次川崎市教育振興基本計画 かわさき教育プラン」（素案）について

■ 主な取組と成果指標

探究的な学び推進事業 ・「かわさき探究2.0」の全校展開	キャリア在り方生き方教育推進事業 ・「キャリア在り方生き方ノート」及び「キャリア・パスポート」を活用した取組
きめ細かな指導推進事業 ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実のための指導形態や指導方法の研修実践、外部人材を活用した指導	教育DXの推進 ・学習改善やエビデンスベースによる指導改善ができるよう、GIGA端末の更なる活用や教育データの利活用を推進 ・ICT環境の整備

	現状値 (R7)	R8 目標値	R9 目標値	R10 目標値	R11 目標値
課題の解決に向けて自ら考え、取り組む児童生徒の割合	84.3	84.7	85.2	85.7	86.2
自分には、よいところがあると思う児童生徒の割合	86.1	86.8	87.5	88.3	89.1
中1時の「授業理解度」を100とした際の中3の割合（※）	92.3	92.6	92.9	93.2	93.5

（※）学習内容の変化等により学年が上がるにつれて正答率・理解度ともに下がる傾向にある。そこで、中学校1年次の「授業の理解度」を100と設定し、1年次から2年次にかけては、理解度の下がり幅が大きいことから、その低下を半分に抑えるとともに、2年次から3年次にかけては、理解度の下がり幅が小さいことから現在の水準以上を維持することを、今後12年間で達成する目標とする。

子どもたちの学ぶ意欲を高め、資質・能力の3つの柱である「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」のバランスよく育み、“学力向上”を図っていく

“学力向上”に向けた取組

●今後の検討の方向性

子どもたちが安心して学べる環境の中で、「自分たちで考え、解決していく学び」の取組を進め、社会の一員としての役割を果たすとともに、それぞれの個性や持ち味を最大限発揮しながら、自立して生きていくことができるよう、学力向上の取り組みを進めていく。



ア：市学習状況調査の結果を活用した授業改善の実施

- 各学校における授業改善の取組と学習状況調査の結果との関連づけが重要

イ：各教科等の指導や取組の検討

【各教科等共通の取組】

- 単元を通して育成を目指す資質・能力を子どもの具体的な姿で想定して授業を行う。
- 教員が教えたことにただ当てはめて解答を得るのではなく、その意味やつながりを自分で考えて自分の言葉で表現することを重視する。
- GIGA端末を使い、子どもが蓄積した自身の学びの実感をしたり、子どもが互いの思考を参考にして考えたりできるようにする。

→教科（国語・算数/数学・英語）ごとに課題の整理や市・学校での具体的な取組等の検討

全市的な課題の例

●国語

- 教材文を読むこと自体が目標になっていることが課題
- 思いをもって言語活動に取り組まないことが課題

●英語

- 目的等に応じ、必要な情報を自分で考えたり選んだりして表現することに課題

●算数・数学

- 解法の根拠や意味を理解することに課題
- 文章や式、図や表などを組み合わせて考え方を説明することに課題

“体力向上”に向けた取組

●これまでの取組

【現行】かわさき教育プラン 基本政策Ⅱ-施策3 健やかな心身の育成

事務事業名	取組内容
子どもの体力向上 推進事業	<p>児童生徒の健全な心身の育成をめざし、地域スポーツ人材を活用しながら学校体育活動を充実するなど、児童生徒の体力向上につながる取組を進めます。</p> <ul style="list-style-type: none">◆ 休み時間等を活用した外遊びや長縄跳びなどに取り組む「キラキラタイム」の推進◆ 中学校総合体育大会、市立小学校地区別運動会、小学校陸上記録会の実施

参考指標	※かわさき教育プラン第3期実施計画の点検・評価（令和6（2024）年度の点検・評価）							
指標名	指標の説明		実績値	R 4年度	R 5年度	R 6年度	R 7年度	目標値 (R 7年度)
子どもの体力の 状況	体力テストの結果(神奈川県の平均値(体力合計点)を100とした際の本市の割合) 【出典:全国体力・運動能力、運動習慣等調査】	小5(男)	99.9% (R3(2021)年度)	100.37%	100.89%	99.50%	R8 2月 頃公表	102% 以上
		小5(女)	99.8% (R3(2021)年度)	99.98%	100.00%	100.02%		102% 以上
		中2(男)	94.5% (R3(2021)年度)	95.76%	96.12%	98.67%		100% 以上
		中2(女)	96.3% (R3(2021)年度)	97.01%	98.15%	100.84%		100% 以上

参考指標は、児童生徒の健全な心身の育成をめざし、神奈川県の体力合計点平均値をもとに目標値を設定

これまでも、児童生徒の“体力向上”のために、小学校で休み時間等を活用した「キラキラタイム」の推進や、各種大会の実施に取り組んできました。

“体力向上”に向けた取組

●全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果から

【目的】

- ・ スポーツ庁が、全国的な子どもの体力の状況を把握・分析することにより、子どもの体力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ・ 各教育委員会が、子どもの体力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、子どもの体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- ・ 各学校が、児童生徒の体力や運動習慣、生活習慣等を把握し、学校における体力・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

【対象】

- ・ 国公私立の全小学校5年生及び全中学校2年生を対象とした悉皆(しつかい)調査

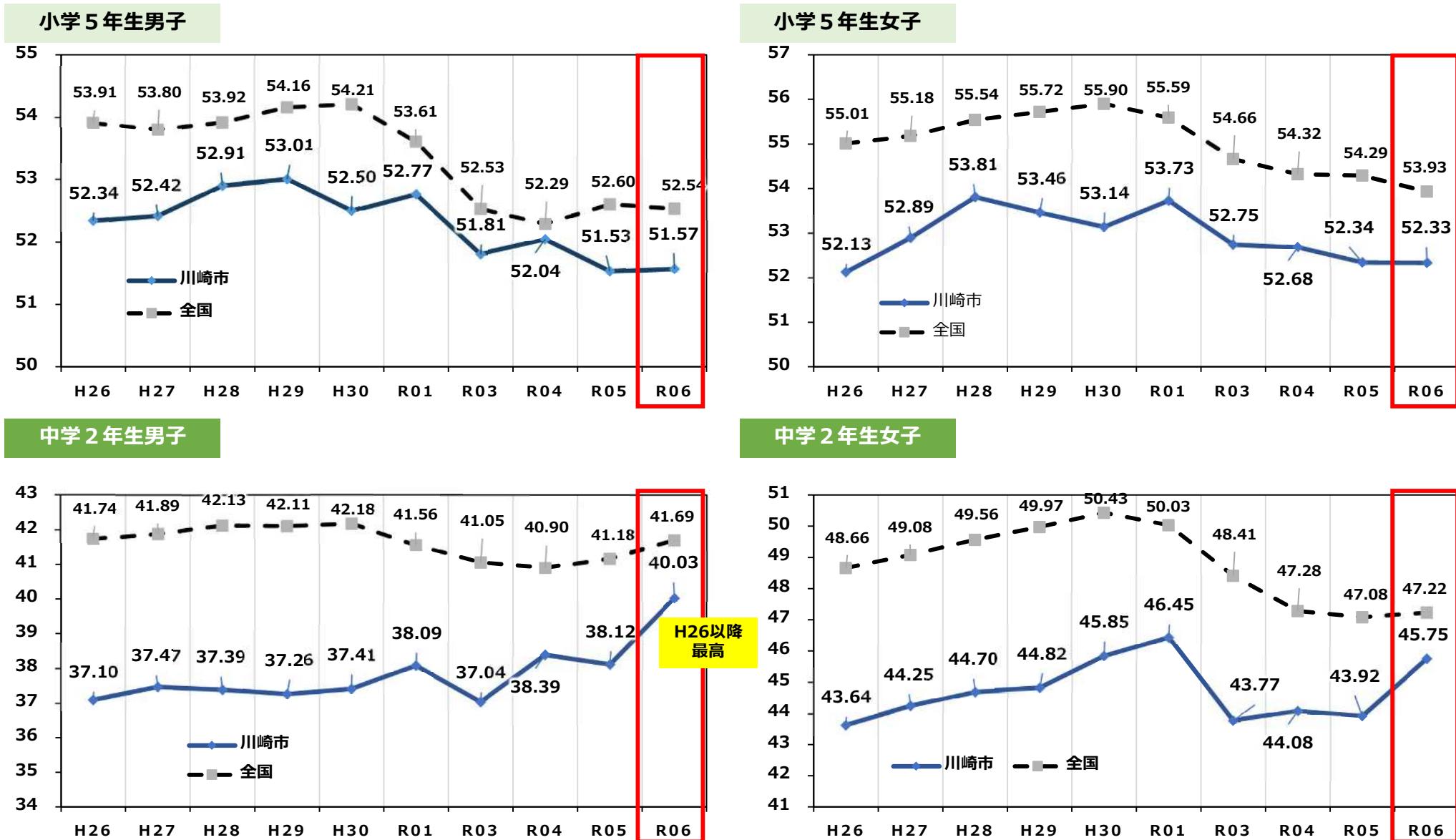
【調査内容】

- ・ 実技に関する調査
 - 小学校：握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走立ち幅とび、ソフトボール投げ
 - 中学校：握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、持久走（男子1500m、女子1000m）か20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ハンドボール投げ
- ・ 質問紙調査

全国体力・運動能力、運動習慣等調査については、スポーツ庁が定めた目的等に基づき、本市でも小学校5年生、中学校2年生を対象に実施しています。

“体力向上”に向けた取組

【国の調査結果 体力合計点（経年推移）】



- 本市の体力合計点の数値は、令和5年度の調査結果と比較して、**小学校の男女では横ばい**
- 中学校の男女では令和5年度の調査結果を上回る結果となり、**男子H26年以降、最も良い結果**

“体力向上”に向けた取組

【運動やスポーツすることは「好き・やや好き」と回答した割合】

	小学校5年生男子	小学校5年生女子	中学校2年生男子	中学校2年生女子
全国	93.3%	86.2%	90.3%	76.8%
川崎市	93.0%	85.8%	88.3%	71.0%

運動やスポーツをすることが「好き・やや好き」と回答した本市の児童生徒の割合は、小学生男女と中学生男子は全国平均とほぼ同じだが、**中学生女子は全国平均より低い傾向**

【学習以外での平日1日当たりのTV,DVD,ゲーム機,スマートフォン等の映像の視聴時間】

		男子							女子							3時間以上合計			
		5時間以上	4時間以上	3時間以上	2時間以上	1時間以上	1時間未満	全く見ない	5時間以上	4時間以上	3時間以上	2時間以上	1時間以上	1時間未満	全く見ない				
小学校	全国	18.5%	11.0%	14.6%	20.4%	22.0%	11.7%	1.8%	14.5%	10.4%	13.8%	19.6%	23.5%	16.1%	2.3%	男子	女子		
	川崎市	18.7%	10.5%	13.6%	19.6%	22.3%	12.9%	2.4%	14.8%	10.9%	12.0%	18.0%	24.0%	17.6%	2.7%	小学5年生	全国		
中学校	全国	17.2%	11.8%	20.3%	26.6%	18.7%	4.7%	0.7%	16.0%	11.9%	20.5%	26.2%	19.2%	5.8%	0.5%	小学5年生	川崎市	42.8%	37.7%
	川崎市	18.0%	12.2%	21.3%	27.0%	17.1%	3.8%	0.6%	15.0%	12.1%	22.3%	26.5%	18.1%	5.5%	0.4%	中学2年生	全国	49.3%	48.4%

本市の児童生徒の1日当たりの画面の視聴時間が3時間以上の割合は、**小学生では全国平均よりやや低く、中学生ではやや高い傾向**

“体力向上”に向けた取組

● 「第3次川崎市教育振興基本計画 かわさき教育プラン」（素案）について

【課題と成果指標】

これまで、子どもたちの体力向上にむけて取組を推進しており、全国体力・運動能力、運動習慣等調査から次の項目は、令和6年度時点で、**政令指定都市の平均値よりは低い状況**にある。

全国体力・運動能力、運動習慣等調査

	現状値		R8	R9	R10	R11
	数値	年度	目標値	目標値	目標値	目標値
運動やスポーツすることは「好き」、「やや好き」と回答した児童生徒の割合	85.5%	R6	86.0%	86.2%	86.5%	86.7% ※政令指定都市の平均値
政令指定都市の体力合計点の平均値を100とした際の本市の割合	99.0%	R6	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

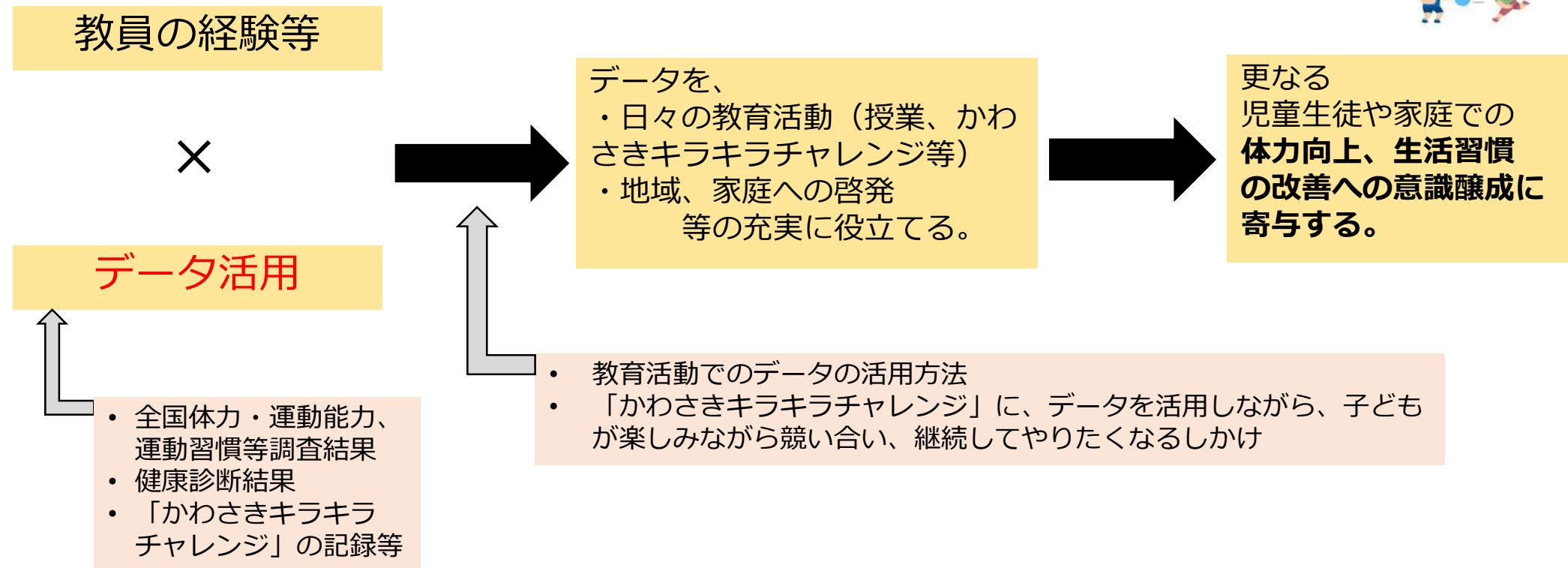
子どもたちが生涯にわたりスポーツに親しむ基礎を培い、体力向上に資するため、運動習慣の定着や生活習慣の改善に向けて、**児童生徒の生活環境が近い、他の政令指定都市の値をもとに成果目標値を設定し、更なる運動習慣意識醸成や運動能力の向上をめざす。**

● 次期かわさき教育プラン 政策2：豊かな心とすこやかな体の育成

事務事業名	取組内容	主なアウトプット
体力向上・部活動支援事業	児童生徒の運動習慣の定着や生活習慣の改善に向けて、体力や生活習慣等に関するデータを学校での指導や家庭での取組に活用するなど、意識醸成につながる取組等を進めます。また、地域との連携や外部人材の活用を図りながら、持続的に部活動が実施できるしくみづくりを進めます。	◆データを活用した学校体育活動等の実施、かわさきキラキラチャレンジの充実（R8年度～） ◆水泳授業での外部施設活用の拡充（～R11年度） ◆「かわさき部活動ガイドライン」を踏まえた取組の推進（R8年度～）

“体力向上”に向けた取組

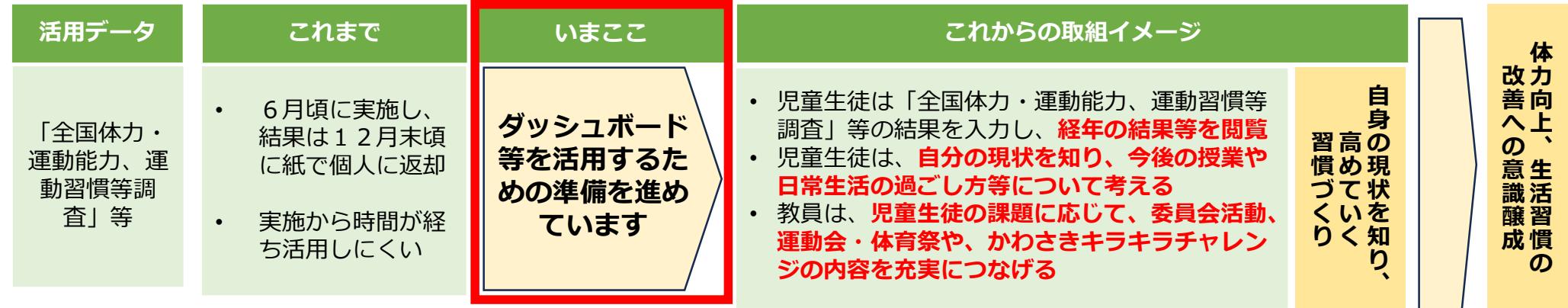
●データ活用に向けた環境整備の具体的な取組



児童生徒の更なる体力・生活習慣づくりに向けては、データを活用することで、学校での習慣付けだけでなく、家庭でも新しくできる取組が生まれたり、効果的に実施できたりするようになる。

“体力向上”に向けた取組

【取組① 「データを活用した学校体育活動等の実施】



活用イメージ例

自分の得点の到達度を表で確認

項目	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ボール投げ
わたし	17kg	21回	36cm	42点	47回	9秒	153cm	
次点まで	3kg	2回	2cm	4点	10回	0.2秒	3cm	2m
10	×26kg以上	×26回以上	×49cm以上	×50点以上	×80回以上	×8.0秒以下	×192cm以上	×40m以上
9	×23~25	×23~25	×43~48	×46~49	×69~79	×8.1~8.4	×180~191	×35~39
8	×20~22	×20~22	×38~42	×42~45	×57~68	×8.5~8.8	×168~179	×30~34
7	○17~19	○18~19	○34~37	○38~41	○45~56	○8.9~9.3	○156~167	○24~29
6	○14~16	○15~17	○30~33	○34~37	○33~44	○9.4~9.9	○143~155	○18~23
5	○11~13	○12~14	○27~29	○30~33	○23~32	○10.0~10.6	○130~142	○13~17
4	○9~10	○9~11	○23~26	○26~29	○15~22	○10.7~11.4	○117~129	○10~12
3	○7~8	○6~8	○19~22	○22~25	○10~14	○11.5~12.2	○105~116	○7~9
2	○5~6	○3~5	○15~18	○18~21	○8~9	○12.3~13.0	○93~104	○5~6
1	○4kg以下	○2回以下	○14cm以下	○17点以下	○7回以下	○13.1秒以上	○92cm以下	○4m以下
得点	7	8	7	8	7	6	6	

あと0.2秒速くなれば、1点上げることができるぞ！

今後の目標設定に活用

次回の目標									
タイムスタンプ ▾	次回の目標								
2025/06/04	次回は、今年の記録を超えてA評価になれるように普段の部活や体育の授業から体力づくりを心がけて活動していく								
項目	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	持久走	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ボール投げ
次回の目標	36kg	29回	55cm	50点	270秒	-	8.5秒	190cm	19m

データ利活用により、児童生徒が自分の体力・生活習慣について現状を知り、よりよくしていくために自ら考え、自分たちで解決していく意識を醸成することを目指します。

“体力向上”に向けた取組

【取組② 「かわさきキラキラチャレンジ」の充実】

「かわさきキラキラチャレンジ」は、これまで実施してきた「地区別運動会」が令和2年度から4年度にかけてコロナの影響で中止になったことを契機に内容の見直しを図った取り組み。

年	～H17	H18～R1	R2～R4	R5～
全市的 体育的 行事	連合運動会	地区別運動会	中止・見直し	かわさきキラキラチャレンジ

見直しのポイント

- ・種目を、新体力テストの結果を十分に踏まえた内容に見直す。
- ・他校との交流も可能となるような取組内容に見直す。
- ・教員の負担軽減を図るよう、各学校単位での取組を充実させる内容に見直す。

【実施方法の見直し（令和5・6年度）】

地区別運動会		かわさきキラキラチャレンジ	
対象	小学6年生児童のみ	対象	全児童
規模	複数校によるブロック制（4-5校） ※拠点校に集合・開催	規模	各学校単位での開催
種目	全5種目 長縄10人連続跳び・長縄8の字跳び・ふるさと川崎競争・リレー・ブロック種目（ドッジボール投げ・リズムダンス等の中から選定）	種目	15種目程度の中から選ぶ 短縄連続跳び、連続二重跳び、3分間8の字跳び、長縄10人跳び、ダブルダッヂ、2分間キヤッチボール、2分間両手パス、2分間キックパス、2分間フラフープ、瞬間移動、片手新聞丸め、シャトル投げ等
実施時期	10月中旬（全市一斉）	実施時期	年間を通じて実施

“体力向上”に向けた取組

今後の取組について

目的は、休み時間等に児童が体を動かす機会を設けるなどし、**児童が自ら進んで遊びやスポーツに親しむ機会を拡充し、体力の向上につなげる。また、運動に親しむ習慣を育むとともに、体力の向上を図るものとする。**



GIGA端末を活用し、子どもたちが楽しみながら競い合い、継続してやりたくなる仕組み

GIGA端末活用イメージ

ステップ①

紹介されている内容から種目を選択
※学校独自の種目を実施することも可能



ステップ②

取り組んだ記録を入力

かわさきキラキラチャレンジ 【●●● 記録入力シート】								
地区	学校名	学年	記録（半角）	クラスやニックネーム	順位（全体）	順位（地区別）	順位（学年別）	順位（学校別）
▼	1	▼			位	位	位	位
▼	殿町小学校	▼			位	位	位	位
▼	四谷小学校	▼			位	位	位	位
▼	東門前小学校	▼			位	位	位	位
▼	大師小学校	▼			位	位	位	位
▼	川中島小学校	▼			位	位	位	位
▼	藤崎小学校	▼			位	位	位	位
▼	さくら小学校	▼			位	位	位	位
▼	大島小学校	▼			位	位	位	位
▼	渡田小学校	▼			位	位	位	位
▼	東小田小学校	▼			位	位	位	位

家庭での取組にもつながるお手本動画

かわさきスポーツパートナーに御協力いただいた、お手本動画の閲覧が可能。
自宅にGIGA端末を持ち帰り閲覧することで、家庭での取組にもつながる。
※右の画像は「川崎フロンターレによる3mキックパス」

